

「レビー小体型認知症サポートネットワーク（DLBSN）東京 4月交流会」にご参加くださった皆さま
ご参加くださったこと、申込時に数多くのご質問を寄せてくださいましたこと、心より感謝申し上げます。
しかし限られた時間の中で、ご質問すべてにお答えすることができなかったことが残念でなりません。
ここに、申込時に頂いた質問の概要をいくつかご紹介します。

- 82歳になる父ですが、最近は 食事、トイレの時以外は 寝ていることが多く、リハビリにも
行かなくなってしまいました。
どんどん筋力が衰えてしまうのが心配です。気力もなくなってしまっているようで…。
- 私の母が3月にレビーとわかり、どの様にしていけばよいのか一緒に生活していく中で、とても戸惑い・分かっていても「なぜ…」と
思う様な言葉を聞くと腹も立ち、言い返してしまいます。
- 心臓病やアレルギーなど薬が多く、近くで世話したいですが、経済的に難しい施設は無理です。
良い時と悪い時の差が激しいですが、良い時には意識がはっきりしています。遠方で見ていただくようになったとしたら、頻繁に
面会に行くことができなくなりますが、症状が悪化するようなことも覚悟していた方がよいでしょうか。

では、1つの質問をとりあげて、解決の糸口を考えてみましょう。

- 本人の気持ちを傷つけずに、困った行動（例：「勝手に貯金が引き出されているから確認したい」と言って銀行に電話をして
しまう）を止めるコツがあれば教えてください。
- ① 「人」が見える幻視の症状はありますか？
- ② 「勝手に貯金が引き出されている」と言う直前に、引き金となることが何かありましたか？
- ③ 通帳を見せて説明する時間的な余裕（電話をするまで）はありますか？説明すると納得できますか？
- ④ 一緒に銀行（ATM）に行き、記帳することで納得できますか？

プロセスのポイントは

「妄想（思い込み）」の原因となることに当たりをつける。
ご本人の個性や有する能力から対策のヒントを考える。

「④」で大切なことは

「新しい取引はありません」のような表示が画面に出ること
記帳する前に残高や日付を確認してもらい、機械に入れても何も記帳されないこと

いかがでしょうか。交流会の席上でこのようなやりとりをライブでできたら、さらに、顧問医・協力医からお薬のヒントがいただけたら、
もっと核心に迫れそうですね。

家族が介護する上で大切なことは

病気そのものを理解すること

ケアの基本的なコツを学ぶこと

基本的なコツをご本人の特性に合わせて応用していくこと

ご本人が十分力を発揮しその人らしさを保つことを目標とすること

一日一日、一瞬一瞬を大切に喜びの多い時を共に過ごすこと

では、また交流会でお会いしましょう。初めての方のご参加もお待ちしています。

次回の「コラム」は〇〇先生です。お楽しみに！